



青森県教育改革有識者会議
青森県の教育に関するアンケート分析報告

<集中実施期間とりまとめ>

株式会社 マーケティングジャンクション



調査概要

調査概要	
1	調査名 青森県の教育に関するアンケート
2	調査目的 教育大綱の策定等に当たり、幅広い見地から助言などを得ることを目的に設置した県教育改革有識者会議において、議論の検討材料として、学校現場における具体的な課題など、関係者の声を幅広く収集し「見える化」を図るために実施
3	調査対象 青森県の小・中・高、特別支援学校に勤務する教員約1万1千人及び保護者
4	調査期間 2023年8月28日～9月5日

回収結果/回答者属性

教員調査・回答者属性

ジェンダー

	n	%
全体	5,504	100.0%
1 女性	2,735	49.7%
2 男性	2,586	47.0%
3 他	9	0.2%
4 回答しない	174	3.2%

n=5,504

職位

	n	%
全体	5,504	100.0%
1 一般職	4861	88.3%
2 管理職	643	11.7%

n=5,504

学校

	n	%
全体	5,504	100.0%
1 小学校	2,317	42.1%
2 中学校	1,516	27.5%
3 高校	1,172	21.3%
4 特別支援学校	499	9.1%

n=5,504

公立・私立

	n	%
全体	5,504	100.0%
1 公立	5,338	97.0%
2 私立	166	3.0%

n=5,504

勤務地

	n	%
全体	5,504	100.0%
1 青森市	1,290	23.4%
2 弘前市	755	13.7%
3 八戸市	1,006	18.3%
4 黒石市	115	2.1%
5 五所川原市	240	4.4%
6 十和田市	212	3.9%
7 三沢市	180	3.3%
8 むつ市	296	5.4%
9 つがる市	154	2.8%
10 平川市	147	2.7%
11 東津軽郡	101	1.8%
12 西津軽郡	71	1.3%
13 中津軽郡	10	0.2%
14 南津軽郡	73	1.3%
15 北津軽郡	127	2.3%
16 上北郡	394	7.2%
17 下北郡	97	1.8%
18 三戸郡	236	4.3%

n=5,504

年齢

	n	%
全体	5,504	100.0%
1 ~27	392	7.1%
2 28~34	573	10.4%
3 35~44	998	18.1%
4 45~54	1,981	36.0%
5 55~	1,550	28.2%
6 不明	10	0.2%

n=5,504

保護者調査・回答者属性

性別

	n	%
全体	1,919	100.0%
1 女性	1,389	72.4%
2 男性	428	22.3%
3 他	9	0.5%
4 回答しない	93	4.8%

n=1919

就学中の一番上の子の学年

	n	%
全体	1,919	100.0%
1 小1	132	6.9%
2 小2	153	8.0%
3 小3	115	6.0%
4 小4	134	7.0%
5 小5	139	7.2%
6 小6	143	7.5%
7 中1	155	8.1%
8 中2	191	10.0%
9 中3	174	9.1%
10 高1	167	8.7%
11 高2	144	7.5%
12 高3	132	6.9%
13 その他	140	7.3%

n=1919

(属性)年齢

	n	%
全体	1,919	100.0%
1 20代以下	25	1.3%
2 30代	532	27.7%
3 40代	1,048	54.6%
4 50代	285	14.9%
5 60代以上	17	0.9%
6 不明	12	0.6%

n=1919

回収結果/申告ジャンル別・自由回答の回答数（教員）

教員・阻害要因や無駄なこと

ジャンル	出現回数
部活動指導	1,066
勤務時間	974
保護者対応	876
制度・ルール	735
ICT	698
職場環境や設備	646
校務分掌	635
研修	327
アンケート	253
担当授業	244
行事	206
因習・慣例・雰囲気一般	184
地域性	180
会計	169
調査	157
人間関係	151
業務	140
PTA	133
会議	124
採用や採用試験	114
事務作業	97
その他	89
外部	77
ハラスメント	75
生徒	69
多様性	58
教員	53
通知表	44

本来	42
スキルアップ	41
教育委員会	39
作品展発表会など	38
印刷	36
管理職	34
文章業務	32
ビルドアンドビルド	28
指導 指導計画	26
学習状況調査	25
特別支援	23
人員不足	23
人権	19
職員室	17
雰囲気	16
不登校	16
人事	16
募集	15
スクールバス	15
研究・研究会	15
朝	14
宿題	14
掃除	13
労力	12
出勤	12
行政対応	12
出張	11
無駄はない	10
評価	10
飲み会	10

なし	10
児童	9
事務局	9
家庭と学校	9
働き方改革	7
電話対応	7
給食費	7
コロナ	7
キャリアアップ	7
通勤	6
長期休業	6
小学校連合体育大会	6
祭り	6
配布物	5
奨学金	5
給料	5
学習発表会	5
学校外	5
お茶	5
役職	4
年代	4
入試	4
小中連携事業	4
自己目標	4
学校運営協議会	4
ALT	4
女性職員	3
見回り	3
検定	3
運動会	3

改善・改革項目

ジャンル	出現回数
教員数	1,551
部活	490
インクルーシブ教育	468
学校設備	435
ICT教育・環境	418
その他	354
人事	345
教育の量	330
学校行事	328
PTA・保護者	324
教育組織	286
教育の目標・目的	270
不登校	254
手続き・事務	254
校外生活・活動・業務	249
教育の手法・技法	248
教員の対応	235
授業内容	217
進路・受験	209
校則・制服等	188
教育の偏り	174
その他教員関連	174
評価対象・方法	151
多様性	142
教育委員会	134
子供の自由意思・個性	132
社会・地域	130
校長・管理職	106
障がい	103
人権	78
授業選択・コース	76
いじめ	59
給食	55
グローバル教育・環境	17
	8,984

回収結果/自由回答ジャンル別集計（保護者）

保護者・改善・改革

ジャンル	出現回数
教員の対応	249
部活	245
学校設備	196
その他（次問にお答えください）	179
校則・制服等	177
教育の手法・技法	176
PTA・保護者	157
不登校	118
子供の自由意思・個性	109
授業内容	105
教員数	95
教育の偏り	91
ICT教育・環境	91
いじめ	90
インクルーシブ教育（特別支援教育）	87
学校行事	82
社会・地域	78
給食	78
人権	76
教育の目標・目的	74
進路・受験	74
教育の量	64

障がい	63
校外生活・活動・業務	62
その他教員関連	61
教育組織	50
手続き・事務	48
多様性	45
授業選択・コース	41
グローバル教育・環境	40
人事	29
教育委員会	27
評価対象・方法	27
校長・管理職	16
教員の仕事量	1
安全	1
休み	1
課外活動	1
スクールバス	1
学童保育	1
教育費	1
宿題	1
その他	1
計	3,209

■ AIテキストマイニングを通じた特徴的なワード

- 今回の調査の中で、あらゆる課題や問題の背景となっている構造、端的に言い表してるワードは、「ビルド&ビルド」。スクラップをせず、古いしきたりや慣習、惰性での継続、その上、新しい課題や方法を積み上げてきたような、多くの問題の根源をこの言葉が語っている。
- 一方で、子どもたちのことを一番に考え、やるべきことはやってきた教員も多く、結果として無駄なことはないという言葉もある。
- これらの相対する特徴的なワードが、教育改革の方向性や内容を検討し、進めるうえで、重要な特徴的ワードとなる。

ビルド&ビルド

(コメント)

- ✓ ICTなど、新たなことを取り入れていかなければならないが、今までの仕事もそのままなので、やらなければならないことが増えていくばかりになっている。
- ✓ なにかやらなければいけないことが増えるたび、付随してアンケートや聞き取り調査をしなければならなくなる。そして、増えていくばかりで、減ることがない。
- ✓ 教員数や生徒が減少しているにもかかわらず、前例踏襲の学校行事等が多く、負担が増えるばかりである。
- ✓ 地域行事が多く、学級担任の負担も考えずにどんどん増えていくばかりです。

無駄なことはない

(コメント)

- ✓ 阻害していることや無駄な仕事とはあまり思わないが、やるべきこと、(必要な)仕事自体がたくさんあると思う。
- ✓ 無駄ではないが教育支援に関わる市から委託された業務が負担である。

■ 教員アンケート 無駄なことや阻害要因<主なジャンルからランダムに抽出>

【部活動指導】

- 部活動で平日の長時間にわたる練習や週休日の練習を強要されること。
- 短時間で終えたり、週休日を休みにすると、「他の部はやっている」「熱意が足りない」などと、校長、教頭に長時間にわたり叱責を受けたことも複数回ある。
- 部活動について、同じ部活動を受け持っている顧問の先生が非協力的で、自分自身が部活動につけないときや遠征の引率などを頼みづらい。
- 部活動は基本的に生徒主導で実施させたいものの、物の破損や体調不良、あるいは、規定外の練習(2部練、自主練)の存在により、拘束時間が長い。
- 部活動の顧問を担当すること。時間的、体力的に負担が大きい。専門的な知識や技術がない場合は特に苦しい。
- 専門ではない部活動の主顧問になり、更に、地区の取りまとめをすることになってしまった。課外活動の指導。

【勤務時間】

- 登校指導に地域の方も入ってくださっているのに、教員も朝からつかなければいけない。朝早くからの勤務がある。
- また、土日のPTA行事にもほとんど参加しなきゃいけないような雰囲気がある。
- 書類の提出や部活動などの業務に時間が割かれ、生徒とじっくり向き合ったり、教材研究する時間が十分に確保出来ていない。
- 部活顧問、PTAなどの雑用。アルバイトでもできる仕事だがお金を出さないので教員がやっている。
- しかも時間外扱いされないのでタダ働き。
- 長期休業中の講習時に、連絡事項が特にないの朝の打ち合わせを行うこと。学習指導の準備や三者面談の準備の時間が奪われる。

【保護者】

- 極力個人的な電話番号は教えないようにしているが、部活動等の関係で教えざるを得ないことがある。そうすると、そこから電話番号を聞きつけて、休日でも電話やメールをしてくる保護者がいる。
- PTA、PTA同窓会、同窓会、奨学会と外郭団体が4つあり、総会に必ず懇親会がセットになっていること。
- 保護者対応(子ども同士の小さなトラブルや、トラブルによるけが等について過剰に反応する保護者が一部いるので神経を遣う)些細なことでも連絡して、家庭との情報共有をしなければいけない。連絡が取れるまで帰れない。
- PTA活動で、学年委員会の活動の相談や全体のPTA活動。連絡のとりまとめや手紙配布。奉仕活動も保護者の参加が少ない。
- 学校からの通信をよく読んでいない保護者がおり、休み時間に個々に連絡帳を書いたり、電話で確認したりしないといけない。

【ICT】

- 校内のICT環境や家庭へのメール配信環境が整っていても、会議資料や家庭への文書は書面で管理職に確認の上、印刷、仕分けやとじ込み、配付作業が必要なこと。
- 無駄な作業について、ICT機器が学校で不足しているため、授業を行う際に応じて、毎回教室に出し入れをしなければならない。
- 事前準備に十分な時間を取れないことや、他の教科との時間を常に把握していなければならない。また必要なのに優先順位で使用できない場合もあり、とても大変。
- ICT活用のためのタブレットを渡されているため、実験のグラフを書いたり計測用のアプリを入れたいが、アプリを入れるのに許可がいる。
- 職員用のPCTラブル等への対応について。年度替わるごとに、転勤者20台以上のPCの再設定を行う必要がある。

■ 教員アンケート 無駄なことや阻害要因<主なジャンルからランダムに抽出>

【制度・ルール】

- 指導要録は、開示請求に応えなければならないため、事実を忌憚なく書くことが難しい。通信票をもとにして書くとはいえ、時間を要する。次の指導に生かすこともほぼないと思うので、まだではないかと考える。
- 複式の学校で学級担任をしながら教務主任も兼任していて忙しい、職員の人数が少なくても、提出する書類や仕事量は変わらないので、職員を増やして欲しい。
- 通学路や学区内の安全確保のための見回りや点検作業が、確認して報告しても自治体が動かないことには安全確保や補修作業が行われないため、かけた時間に見合った成果が得られていない。
- 特別支援学校に在籍している児童生徒について、本人や保護者が希望する場合には、週に1日程度、居住地のある小・中学校での学習を可能にして欲しい。
- 土日の学校行事の多さ。

【職場環境や設備】

- 職員に向けての膨大な量の文書の回覧が毎日のように回ってくるが、目を通す時間もないので、チェックして次の人に回すだけの作業になっていて非常に無駄だ。
- 出勤簿、タイムカード、勤務時間記録簿全て出勤や勤務状況を確認するためのものと思われるが、同じ目的のものを方法を変えてやっているだけのように感じる。小規模校であるため、廊下、窓、トイレ、学級以外の教室等の清掃が行き届いていない。
- 清掃自体は本来の仕事と捉えられるかもしれないが、一人一人の業務が多く、対応しきれていない。
- 学校兼務が辛い、本所属の中学校の生徒への指導が疎かになったり、兼務先でも成績をつける際に生徒を放課後残すことができないので提出率が下がる。どちらも中途半端になってしまう。

【校務分掌】

- 集金が引き落としになり、とても楽になったが、学年会計簿の作成や支払いは、空き時間も少ないので勤務時間内では難しく、勤務時間外の仕事になる。
- 養護教諭、保健主事、給食主任を兼任しており、保健安全に関わる全ての仕事の担当が自分になる。
- 似たような各種報告書「複数回答可」となっているが、そのとおり記述するとエラーなどが出たり、集計間違いが出たり、その度に連絡をしたり、確認作業をしたり、発送手続きをしたりが必要になり、学期末、年度末で時間がないのに膨大に時間を取られた。
- 役場、県教委等から別々に来る同じような質問への回答(進路、体力、安全等)一回で済ませて欲しい。避難訓練や交通安全教室、現場実習等、外部とのやりとりが多く、授業中の電話対応や打ち合わせのための出張が増え、生徒と関わる時間が減ってしまった。

【その他、頻出ワード数(学校行事)】

- 教員や子どもの数など学校の実態、地域の実態に応じた行事の精選が必要である。
- 学習発表会的なイベントがあり、どうしても日頃の成果を発表するという目的以上の内容になりがち。
- コロナウィルスが流行していた頃は、行事の精選などが行われ、余裕を持って行事などに取り組めた。しかし、コロナウィルスの流行が減退していくとともに、以前と同じか、それ以上のことを要求されている。

【その他、頻出ワード数(会計)】

- 学級費などの会計処理を行うこと。学級担任が会計処理の準備や事務的な作業を行っているため、授業の準備や時間が取れないこともある。

■ 教員アンケート 改善・改革が必要な項目<主なジャンルからランダムに抽出>

【教員数】

- 個々の教員が抱える業務が多く、生徒や家族と向き合う時間の確保が難しい。
- 産休・育休など、他の教員の負担が増加するケースが少なくない(臨時講師が見つからない、非常勤対応となり分掌や部活動顧問の人員は実質減になる等)。
- 特別な支援を要する児童が年々多くなっており、一斉授業でついていけない子供全員に、学級担任一人では手立てを講じることが難しい。
- 子どもたちは専科の授業を楽しく受けていたので、外国語だけではなくもう少し増やしてもいいと思います。
- 人員が明らかに不足しており、人員を増やすか、仕事量を大きく削るかしなければ、教員志望者はさらに減少し、教育の質の低下は確実に進むと思う。

【部活動】

- 指導できない、未経験種目の部活動指導。努力で補えない部分が多く、教師にとっても生徒にとっても不利益が多い。
- 部活動指導員は本校にはいない。他校でもいたとしても1人。全ての部活動に欲しいぐらいなのに、予算も人材もない。何ら恩恵を感じない。
- 部活の顧問は必ず教員が担当しなければいけないこと。顧問をやりたい人だけがやればいい。経験や知識が無い教員より地域から集った方へ頼んで欲しい。
- 今すぐに、部活を地域移行すべき 遅れることで、自分の子どもとの時間が終わっていく 部活動の顧問をやるのはいいが、量に見合う手当てを出して欲しい。現状はほとんどボランティアだと思う。
- 部活動指導は、クラブチームでの指導にするべきだと思う。専門知識が豊富なコーチのもとで指導を受ける方が、経験のない教員が顧問の部活動で練習するよりも生徒のためになるし、より上達するのではないだろうか。

【インクルーシブ教育】

- 青森県特別支援研修会という任意の団体の研修にもかかわらず、参加しないと校長室に呼ばれ参加するよう促されたことがあり、ほぼ強制的に参加させられた。会費も1,000円徴収される。
- 研修は、高校教育研修会のように自ら選べるものに改善して欲しい。
- 「目立ちたくない」という理由から、例えば、読み書きの苦手な生徒は端末を使う、計算が苦手な生徒は電卓を使う、勉強が苦手な生徒と得意な生徒で課題の量や内容を変える、など、その子に合った学び方を実践することが難しい。
- 通級指導教員1人が担当する児童生徒13人は多い。コマ数が増え、教材準備がかかり、勤務時間に終わるはずがない。
- 特別支援を要する子どもが多くなったので、教員や特別支援アシスタントを増やしたほうがよい。

【学校設備】

- 45人が一学級なので、教室が狭く、動けるスペースが少ない。給食台も置けず、給食の配膳は、廊下で給食台を2台使って行っている。
- ICTも活用しているが置き場所に苦心している。二学級の人数がいる場合は、それなりに広い教室が必要と思う。通常の授業で使用する普通教室にはエアコンがあるが、音楽室等の特別教室にはエアコンが設置されていない。
- 特別教室にも冷房を設置して欲しい。厳しい暑さです。特に午後は西日が当たり風も入ってきません。実習室のエアコンがついていない。
- 技能教科の施設設備や教材備品の充実にお金をかけて欲しい。
- 特別教室にエアコンも設置されず、指導者の体調不良の原因になっている。エアコンを稼働しても30℃を超える教室で、落ち着いて学習することなどできそうにない。まして特別教室には設置されていないため、使用も難しい。

■ 教員アンケート 改善・改革が必要な項目<主なジャンルからランダムに抽出>

【ICT教育・環境】

- 一人一端末と導入されたが、破損や老朽化が多く見られ、不具合のある状態で使っている生徒も多い上に、授業中ゲームなど関係ないことをやる生徒もいること。
- 教室や職員室にはエアコンが付いたが、理科室や美術室、体育館にはエアコンがないため、今年のような酷暑では大変すぎる。生徒もそうだが、教科担任は1日いっぱいその部屋にいることになるので、熱中症も避けられないのではないかと考えられる。
- ICTの利活用のために、一人一台端末配布の予定であったが、低学年には配置されていない。ICT環境の改善。ネットワークを強くする。公開が必要なクラスがあると、他のクラスの制限がかかる。
- 生徒貸与の端末を改善する。故障が多い、それに対する端末数が少ない。校内でパソコンに詳しい職員にICT機器の管理を任せず、専任の支援員を配置する。

【人事・教員配置】

- 生徒の問題行動は増えているが、教員の配置に余裕がなく、直接の対応や授業の補充など、対処が難しくなっている。
- 中学校の教科指導において、免許外の教員が指導する場面が増えてきているように思う。また、きめ細かい指導もできない。
- 教員の定数を増やす必要性を感じる。人によっては出張で学校にいないことが多い先生もいる。それをカバーするだけの余裕が今の現場にない。
- 授業第一といわれてもそれに時間を割く余裕がない。教員数を増やし、少人数学級で一人一人の生徒に目が行き渡るようにするべき。
- 40人学級は先生も生徒も苦しい。地歴公民科で、地理総合が必修科目であるにもかかわらず、地理を指導できる教員が少ない。採用が地歴で括られているため、日本史や世界史を専門とする方の受験がどうしても多く、結果的に地理を専門とする若い方がなかなか採用されていない。

【学校行事】

- 学校行事の見直しです。先日の第1回有識者会議でも話題になっていましたが、児童が主体になっていない行事が多く、教員以上に児童が負担になっているものが多い。
- 今の時代に合っていないその学校の慣例になっているものは変えるべきだと思います。
- 地域との連携等で敬老会・老人ホーム等での発表を行う、学年ごとの行事(絵を描く会・登山・遠足等)、学校行事(運動会・学習発表会・バザー)、今までやってきた行事をなかなかなくせないこと。
- 学校行事(小さなものを含む)等が、社会の要請に従って多くなっているが、減らすことを出来なくしている。
- 教員が足りなすぎ。サポートスタッフではなく教員の補充をして欲しい。
- 1人で学校全体が動く行事を企画運営は気が狂う。
- 行事の精選、時短。夜の見回り活動、休日の交通安全キャンペーン指導等、地域との連携した活動はボランティアとはいいいがたいものがある。

【教育の量】

- 時代の流れに伴って学校で指導すべき内容が増え続けており、専門的な知識・技能をもった教職員の配置もほとんどない状態。
- 育てたい資質・能力を身に付けさせるために時間を十分にかけてことができず、学力の低下や学習意欲低下などにつながっている。
- 学習内容が多く、また行事等に向けた準備等によって、十分な学習指導ができないときがある。
- (小中での授業参観など)教科書の学習する内容が多く、さらに難しくなっているため児童生徒が理解するための時間が確保できない。
- 学習する内容や教科の削減が必要だと考える。
- 生活科、総合、外国語科、道徳科、ICTと指導内容が増え続け、かつ教科の内容も増え、授業時間も増えた。しかし、教員は減り、加配もなくなり、現場は苦しい。
- 高学年の児童が学習以外に行うことが多すぎる(学校代表として行事、イベントへの参加、委員会や縦割りでの活動、業間活動など)。

■ 保護者アンケート 改善・改革が必要な項目 <主なジャンルからランダムに抽出>

【教員の対応】

- 授業中、わからないことがあっても『何でわからない！』と言われたり、誤答すると『何で？』と言われたりするので、先生に質問出来ず萎縮している。
- 小学校教員の、子どもに対する言葉選びが良くない。
- 先生によって教え方のばらつきが大きく、当たり外れがあるように感じる。A先生が受け持つ理科のクラスは、B先生が受け持つ理科のクラスより平均点が高い等。学年高得点者もA先生クラスに多くいる等。注意される生徒と注意されない生徒がいる。
- 強い子どもの言いなりになっているように見える。教師は生徒に平等に接する必要がある。

【部活動】

- 少子化で学校単位の部活ができない。保護者の送迎が必要になり、それができないと部活ができない。それで子どもが運動不足で肥満体型という悪循環。
- 習い事教室のダンス、水泳、体育の講師が学校に来てくれるなど、子どもが運動を楽しめる環境が増えたら嬉しい。
- 中学校1年生から部活の選手になるために、地域クラブに小さい頃から所属し練習してきたが、来年度入学予定の中学校の教頭や部活の顧問から「選手は3年生が優先。それが中学校の部活であり、教育活動だから。」と言われ落ち込んでいる。
- やりたいスポーツの部活動がなく、近隣の地域にそのクラブチームもない。近隣中学は生徒数も減り、部活動が減り、やるスポーツが限られている。小学校で野球をやりたくても、地域で教えてくれる人がいない為、車で30分かけて市内に出向かないとチームに参加する事が出来ない。

【学校設備】

- 38人1クラスは多すぎて子どもが可哀想支援の学級に数名抜けると2クラス基準にならず1クラス判定。教室は狭い、先生の目が届かないなにか問題あったら人数が多くてと言われる。
- 夏休みも終わり始業式になった途端、熱中症対策で授業縮小。エアコン完備されてない中の部活動もやはり熱中症対策で中止。そして、制服登校の見合わせ。例年にない酷暑の毎日で子ども達、命がけの登校。学校は冷却グッズだのみ。
- 学校のエアコンの設備をもっと整えて欲しい。ニュースにもなっていたが職員室の窓がいつも開いているのは換気のためかと思っていたらエアコンがないと聞き、ただでさえ先生方の負担が多いと感じる中でこれはあまりに過酷ではないかと思いました。

【校則・制服】

- 中学生、制服で登校してジャージで帰ってきますが、先生の許可がないとジャージに着替えができないそうです。気温が高い時は自由にジャージ(制服を脱ぐだけ)にして欲しい。
- 暑さも年々増してきているため体育祭は秋に、文化祭は冬にやって欲しい制服も夏服は行事だけにし、普段は制服登校をなくし半袖、短パンジャージ登校が望ましい。
- 髪型は自由にしてもいいのではと思います。校則で縛られすぎだと感じます。くせ毛をコンプレックスに思う子ども多いのでは。
- 低学年では、自分の体重の1/3程の重さのランドセルを背負って登校していたので、学校と家の往復だけでも疲れていた。水筒やタブレット等以前よりも荷物が増えているのに、置き勉を叱る教諭もいた。
- 中学校では校則で白い靴下でなければならず、部活動ですぐ汚れるため履き替えが必要な場合がある。

■ 保護者アンケート 改善・改革が必要な項目<主なジャンルからランダムに抽出>

【教育の手法・技法】

- 学校での教育において、個々のペースや学習スタイルに合わせたカスタマイズされたアプローチが不足していると感じました。一律の進度に縛られることなく、子どもたちが自分のペースで学べる環境が必要だと思います。
- 教育システムはしばしば学問的なスキルに焦点を当てており、実用的なスキルや生活の基本的なスキルを教える機会が不足していることがあります。
- 子どもたちが日常生活で必要とするスキル、例えば金銭管理やコミュニケーション能力、情報リテラシーなどに対する教育の改善が求められています。中学校の時同じ教科書(単元)なのに教員ごとに教え方が違い、とても分かりやすい教員とわかりにくい教員がいた。成績にも影響した。同じ学年で違う教科担任がいたが、同じ学年なのに成績の差が生まれている。機械じゃなく人間なので授業手法に差があるのは仕方ないが、教員の技量の平準化が必要なのは。

【PTA・保護者】

- 随分前に先輩の先生から、教師はサービス業である、と言われた。昨今、確かにそうであると感じる。保護者の教育力。学校任せの保護者が増えてきている。登校しぶり対応もその一つ。
- PTA活動に参加する保護者も少なくなっているが、活動は今までと変わらず、協力している人の負担が大きい。学校に対する保護者の苦情が、一般の常識を超えた範囲のものがあ(クレーム)、その対応に、多大な時間を割かれることがある。
- 保護者自身が子どもの養育を人任せ・物任せにしていると感じることが多く、そのため、保護者の学校に対する要求が過大になっている。保護者がきちんと教える部分(人格、道徳性)と、学校が教える部分(学習、社会性)を役割分担して、子どもを育む社会になればいい。
- PTAの活動にも時間が取られ、遅くまで話合いのため残業したり、学年行事で休日出勤しなければならない日もあった。

【その他、頻出ワード数(インクルーシブ教育)】

- 居住地校交流について、普通学校側から否定的な対応ではなく、障がい児・者の気持ちを汲み取ってくれるような対応を願いたい。さまざまな個性(障がいを含め)を持った生徒達に対し、合理的な配慮が必要とされているが限界があること。
- 発達障がいの生徒が増え、特別支援学級に在籍する生徒が増えている一方、特別支援教育を専門的に身に付けている教員が少ない。多様な生徒が在籍していることにより、相当な支援が必要だが、特に高等学校の先生方は特別支援の勉強をしてこなかった人が多いので、知識のある特定の教員へ仕事が偏りがちである。
- 高校でもきめ細かい特別支援教育をするのであれば、教員数は絶対的に足りない。現状では課題を認知できても対応する余裕が現場には全くないと考えられる。